令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　中尾　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3．教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，算数）の結果

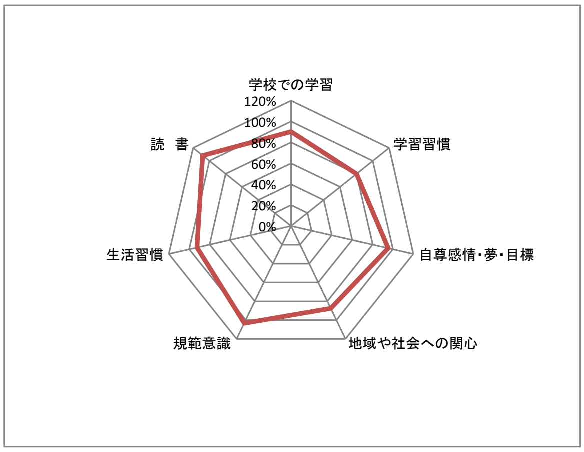
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語			
全体的な傾向や特徴など	・思考力、判断力、表現力に関する問題は県平均を上回った。 ・知識及び技能に関する問題では、県平均を大きく下回った。	全国平均正答率との比較	下回っている
よくできた問題	・思考力、判断力、表現力に関する「話すこと・聞くこと」「書くこと」を問うもの。		
努力が必要な問題	・知識及び技能に関する「言葉の特徴や使い方に関する事項」を問うもの。		

算数			
全体的な傾向や特徴など	・数と計算やデータの活用に関する問題で平均が大きく下回っている。 ・図形の測定に関する問題では平均を上回ることができた。	全国平均正答率との比較	下回っている
よくできた問題	・直角三角形を組み合わせた図形の面積についてわかることを選ぶ問題。		
努力が必要な問題	・8人い4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める問題. ・二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く問題。		

4．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

（良い部分）
・いじめは許されない行為であるとの認識が高い。
・１日の読書時間が長い児童が多い。
（改善が求められる部分）
・学習習慣における家庭学習の時間が平日、休日ともに少なく、家庭学習の習慣が身についていない児童が多い。
・学校での学習についても課題意識を持ち、主体的に学習に取り組む児童が少なく、自分の考えを発表することができていない。
・生活習慣については携帯電話やスマホの使い方に制限がかかっていない家庭が半数近くあり、8割近い児童が長時間使用している。
・人の役に立つ人間になりたいと思っている児童は多い反面、自尊感情が低い児童が多く、将来に対する夢や目標を持てない児童が多い。

5．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・学習始めのめあての提示、学習終わりのまとめや振り返りを徹底すること。児童に課題意識を持たせる様々な仕掛けを授業に取り入れていく。
・基礎学力定着のための指導時間を定期的に確保する。
・学習中における様々な機会を活用し、「話し合いや練り合う活動」の指導・充実を図る。
・無回答が少なく、何らかの答えを見出そうとする児童が多く見られた。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習については学校の宿題をする程度の回答が多かった。自主学習する習慣をつけるため、今後も学校及び学級通信や保護者会等で啓発を続けていく。
・スマホや携帯電話を安全に使用するための学習や、外部講師を招聘しての学習会を実施する等の啓発活動を継続する。